

論文審査の結果の要旨

論文題名：

Effectiveness of role-play in hazard prediction training for nursing students: a randomized controlled trial

(看護学生が行う危険予知トレーニングにおけるロールプレイ使用の効果の検証：無作為化比較対照試験)

申請者氏名： 佐藤 安代

審査の所見

本論文は、看護学生が行う危険予知トレーニングにおけるロールプレイ使用の効果は無作為化比較対照試験で明らかにした論文である。日本で広く使用されているシミュレーショントレーニングの一つである危険予知トレーニング(Kiken-Yochi-Training;KYT)において、従来のイラストを用いた場合と比較するために、看護学生 94 人をロールプレイ群とイラスト群に割り付け、5~6 人のサブグループに対して介入を実施した。危険予知項目確認テストではロールプレイ群の得点項目が有意に高かったが、KYT 得点の増加分については両群で有意差を認めなかったという結果が得られた。

看護教育における医療安全教育は世界的な課題であり、看護師の能力向上のためにさまざまなシミュレーショントレーニングが導入されている。そのなかでもロールプレイは、実際の経験に近い体験を意図的に構築することができる方法であり、患者の安全を犠牲にすることなく状況学習を経験することができるといわれているが、医療安全教育において、イラストやビデオなどの従来の状況提示方法と比較して、ロールプレイの有効性は検証されていない。そのような中、本論文では、ロールプレイ群とイラスト群を無作為に割り付けることにより交絡要因の影響を可能な限り排除してロールプレイの効果を検証した点は博士論文として評価できる。

また、介入の際にアウトカムを測定する評価者には割り付けの情報を与えないなど、出来る範囲の適切な手法を用いていた。統計分析も割り付けに基づき適切に行われていた。危険予知項目確認テストではロールプレイ群の得点項目が有意に高かったが、KYT 得点の増加分については両群で有意差を認めなかったという結果は申請者の仮説とは異なる内容であったが、その理由等についての考察も適切であった。

審査では学位申請者に対して、オリジナルの測定ツールである危険予知項目確認テストをアウトカムとして用いたことへの考察、倫理的配慮として成績評価者と研究の評価者の異同、介入を行った時期、除外された8名の除外理由、ロールプレイの条件設定などの詳細事項、労働安全分野での同様の先行研究の有無、対象者に看護職経験者が含まれていることへの考察、リスク感性の下位尺度ごとのより深い考察などについての質問が出され、いずれも的確な回答がなされた。

以上のことから、本論文は博士（健康科学）の学位授与に値するものとして認める。

【審査員】

主査：埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科 教授 上原 里程

副査：埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科 教授 横山 恵子

副査：埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科 教授 朝日 雅也